

## 第39回 L特急 雷鳥(アオシマ)の巻



鉄道模型はいわゆるプラモデルとは別の立ち位置に1ジャンルを築いている(日本では9mm=Nゲージが盛んである)為、プラモデルは多くはありません。金属部品を多用して精密に再現され走行も可能である鉄道模型は主として一般のプラモデルメーカーではない鉄道模型専門の会社で製造されており、その精密さ故非常に高価です。子供の手に負える代物ではありません。その様な状況の下、蒸気機関車は大小幾つかのスケールのプラモデルが存在しました。しかし今回取り上げるこのキットは電気機関車を模型化したというとりわけ珍しいものです。

何故電気機関車のプラモデルが珍しいのか？それは造型上の「売り」に乏しいからでしょう。蒸気機関車のような力強さを感じにくく、他の車両とは形がそっくりで区別が付きにくいとあれば、余程列車が好きでない限り購入しないのではないかとメーカーの心配までしてしまう程です。「じゃあおまえはどうして買ったんだ？」と突っ込まれそうですが、箱の実写写真が懐かしくて買ったのですよ(ついでに半額で)。そう、ポイントはここにあったのです。「思い出の」「懐かしの」「以前乗った」乗り物なんです。しかもほぼ間違なく飛行機よりその頻度は高い…



キットの内容について簡単に触れておくと、当然動力はありませんが、転がし走行は可能です。しかも車輪部品が金属シャフトで加工済なので、スムーズな動作が約束されたも同然。スプリング内蔵の連結器に拘りを感じるのですが、先頭車両のみのキットなのでこれ1箱では連結遊びはできません(泣)但し複数買いすればレールがどんどん連結できるようです(組立説明図にレールの図解が無いのですが、これ以外の形のレールも有るのか？)。車体の方で特筆すべきは、座席と車体がスライド金型で一体成型!! 塗り分けが大変そう…なお、前述のように同一の車両でも路線が異なると別の名前で呼ばれる訳ですが、それらを

キットデータ	
メーカー	アオシマ
スケール	1/150
当時価格	800円(税抜)

作り分ける為のヘッドマーク用シールが4種類付属しています。欲を言えば、運転席両脇の国鉄マークも是非付けて欲しかったところです。これがないと、「当時」を再現できませんから。